

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論) (生命理工学先端研究特論)
(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

記

- 1 . 講 師 西新宿クリニック 理事長 草間 幸夫
- 2 . 演 題 歯科臨床におけるコンピューター支援の現状と未来
- 3 . 日 時 平成24年5月23日(水)
17時30分 ~ 19時30分
- 4 . 場 所 歯学部特別講堂(歯科棟南4階)
- 5 . 内 容

歯科臨床においてコンピューターの進化による利便性は、保険請求業務のオンライン化や CAD/CAM による修復物作製、CT による診断の高精度化などに見られるように一層身近に浸透してきているように思われる。

しかし医療にコンピューター支援を応用するのには、単に利便性を追求するのではなく、安全で患者へのベネフィットのある術式が、エビデンスに基づいて行われなければならない。

1987 年に Zurich 大学のメールマン教授により開発された CEREC は歯科において初めて実用化されたオールセラミック CAD/CAM システムであり、25 年の歴史の中で多くのエビデンスを輩出してきた。

近年、多くの歯科用 CAD/CAM 機器が市場に溢れ、選択に戸惑うことも多いが、今後は大きな勢いを持って一般産業界からの参入も予想されている。

その中で我々歯科医師は真に選択する眼を持ち、機器使用における医療安全やエビデンスに視点を置き、さらに診査診断や形成、接着といった基本となる知識の確実な習得をおこない、責任ある使い方をすべきであると考えられる。

現在、応用されている CAD/CAM や CT の状況と、近い未来に予定されている方向性を基に、今後の展開とオールセラミック修復の基本的な事項について症例を交えて供覧したい。

連絡先 歯科医療行動科学分野 俣木 志朗(内線 5479)